

## 『罪人を招くため』

マタイの福音書 9:10～13

イエスが家の中で食事の席に着いておられたとき、見よ、取税人たちや罪人たちが大勢来て、イエスや弟子たちとともに食卓に着いていた。

これを見たパリサイ人たちは弟子たちに、「なぜ、あなたがたの先生は、取税人たちや罪人たちと一緒に食事をするのですか」と言った。

イエスはこれを聞いて言われた。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人です。

『わたしが喜びとするのは真実の愛。いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためです。」

### 【18歳の少年の挫折と聖書との出会い】

わかっちゃいるけどやめられない。良いと思ってもする力がない。なんと私は惨めな人間でしょうか？オリンピックのマラソン選手になることを夢見て練習に明け暮れていた高校生時代。毎朝、全力で走って新聞配達をして、学校まで7,7キロを走って通って部活で走る。誰よりも努力すれば一等賞になれる。みんなに認められ、褒められ、賞賛されることが生きがいであり、生きる目的でした。競争社会で勝ち続けることでしか安心と満足がない。… … …

【自信なんかいらないよ。神様がしてくれる】と言われて、そこに飛び込んだ。イエス様を心の中に迎え入れた教会の帰りの夜道、満天の星空が私を祝福してくれている。もうこれからは一人じゃない。出来ても出来なくてもそんなのもうどうでもいい。そのまんまで愛されている。

【自分のように生きること悩む若者の相談相手になろう】牧場をやりながら、安心できる心の居場所を提供していきたい。

農業実践大学の畜産学部に進み、畜産関係の仕事をして、29歳の時に拡大宣教学院で訓練を受けて、まきば福音チャペルを始めた。

子ども伝道に焦点を定め、働きながら子どもの遊び場「ミニ四駆ランド」を無料開放した。毎日、たくさん子ども達が来て一緒にハッスルした。お金が続かない。2週間後に23万円の支払いがあるのに、手元には小銭しかない。私をアメリカ研修に連れて行ってくれた牧師さんが仙台に来ると知って、5年ぶりに会いに行った。武田さん。何が問題ですか？私はお金です。お金さえあれば

継続することができるのに。牧師さんは言った。「武田さんが今やっていることは、子どもたちにどうしても必要なことです。お金くらいで諦めちゃいかん。人が生きていく上でどうしても必要な事のためには、誰が助けなくてもその時は天が助ける。だからお祈りしましょう。」と言って、私の手を取って心の込めてお祈りしてくれました。次の日の朝、新聞配達を3区域していつもの祈り場で歩きながら祈っている時に、私は神様につぶやいた。「牧師先生は、お金くらいで諦めちゃいかんとおっしゃいましたが、ほとんど疲れ果てました。神様、どうしたらいいのでしょうか？」その時、神様が私の心の中に語ってくださいました。

『お前は良く頑張ったな。あなたの苦労は全部知ってるよ。わたしはあなたの全ての罪咎を背負って喜んで十字架にいのちを捨てた。あなたは目の前の子どもたちの必要のためにいのち捨てなさい。』そう言うふうに関心に迫ってきた。えっ、命を捨ててもいいんですか？これまで子どもたちの必要のために必死でやってきたけど、背負い切れなかった。ましてや、私の全ての負い目を贖ってくださったイエス様の大変さはどれほどだったろうと思ったら、その十字架の大変さは愛の大きさだと分かったんです。頭で理解していたアガペーの愛が、実感として私の心に迫って来て、神様の愛が降ってきて、鼻水と涙と大声をあげて田んぼの真中で鳴きました。私みたいな者の命さえ必要とすして下さるなら、喜んで命捨てます。』

それが28年前の出来事です。それからずっと命懸けです。来る者拒まず排除せず、【荒野で養って下さる神様】は、罪人を招いて救うために来たのです。